

4月の安全運転のポイント

202年 4月号

警察庁の発表によると、令和2年の交通事故による死者数は2,839人で、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最少となりました。そこで令和2年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。(資料は、警察庁「令和2年中の交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について」による)

令和2年の交通事故発生状況	発生件数*	309,178件 (前年比 - 72,059件 - 18.9%)
	死者数*	2,839人 (前年比 - 376人 - 11.7%)
	負傷者数	369,476人 (前年比 - 92,299人 - 20.0%)
*発生件数とは、人身事故件数をいい、物損事故は含まれません。		
*死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。		

交通事故死者の過半数は65歳以上の高齢者

年齢層別に死者数をみると、65歳以上の高齢者が1,596人で(図1)、全死者数に占める割合は56.2%と過半数を占めています。

また、65歳以上の高齢者の死者数を状態別にみると、歩行中が743人(46.6%)、自動車乗車中が457人(28.6%)、自転車乗用中が294人(18.4%)、二輪車乗車中が93人(5.9%)で(図2)、歩行中と自転車乗用中を合わせると6割を超えており、この傾向は前年とあまり変わっていません。

高齢歩行者や高齢者の乗った自転車を見かけたときは、スピードを落として、その動向に十分注意しましょう。

事故類型別死亡事故では、人对車両の「横断中」が全体の4分の1近くを占める

死亡事故を事故類型別にみると、車両相互が976件(35.1%)、人对車両が942件(33.8%)、車両単独が825件(29.6%)となっています(図3)。前年に比べると、車両単独(前年26.0%)の比率が高くなっています。

事故類型の内容をみると、最も多いのは人对車両の「横断中」65件(23.5%)で全体の4分の1近くを占め、次いで車両単独の「工作物衝突」464件(16.7%)となっています。「横断中」の歩行者の多くは高齢者と考えられます。道路脇に高齢者を見かけたら、横断してくるかもしれないと考えて、スピードを落とす、ブレーキの上に足を乗せるなど、危険を回避する態勢をとっておきましょう。

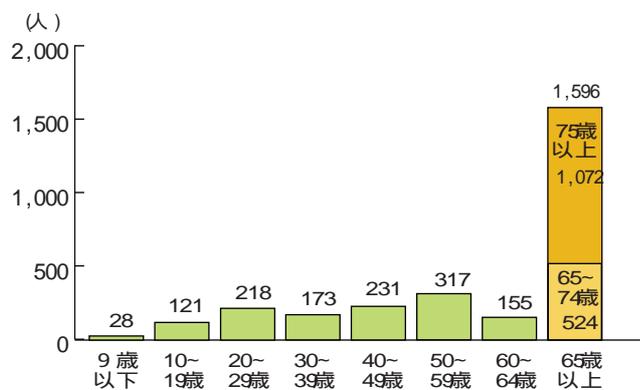


図1 年齢層別死者数(令和2年)

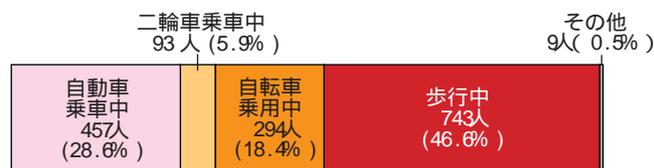


図2 65歳以上の状態別死者数(令和2年)

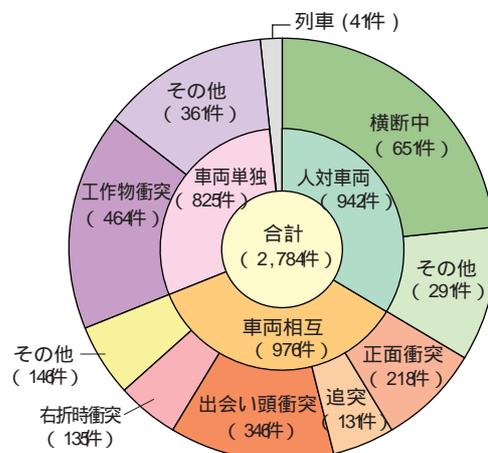


図3 事故類型別死亡事故件数(令和2年)

